

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 アンデルセンnorth			
○保護者評価実施期間	令和7年11月7日		～	令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	令和7年11月7日		～	令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 12月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児一人ひとりに合わせた療育を、専門性を軸とし、様々な角度から柔軟に行っているところです	職員が常に利用児の様子を伝え合い一人ひとりの利用児のことを把握しています。 その上で利用児にとって必要なことなど話し合い支援に取り組んでいます。	利用児の興味のあることなど取り入れながら、 職員同士も教材など様々なアイデアを共有し、楽しい支援を充実させていきたいです。
2	集団ではできない、一人ひとりに合わせた個別療育をしているところです	主には個別療育ですが、必要に応じて小集団療育を行い その中で見えてくる集団活動での課題を職員間で話し合い、個別療育の中に取り入れています	利用児一人ひとりに寄り添い様々な角度からこども理解していき、一人ひとりのニーズに合わせた支援をしていきます
3	言語聴覚士がいることで、言語面においてすぐ相談出来る事、また言語聴覚士監修による言語訓練を行っています。	個別療育に、認知・言語促進プログラムを取り入れ、発達の評価項目と課題に対し、専門分野だけに固執せず、柔軟に支援をしています。	運動、体幹トレーニングを積極的に取り入れ、聴覚処理能力や発達に必要な筋肉（体幹・舌・唇）を鍛え、言語発達を自然に促進出来るよう検討しています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の部分が弱いところ	お子さんの療育時間や送迎時間が利用児によって 一人ひとり違うので、なかなか地域に出向いていくことが難しい部分もあります	近くの公園に保育園のお子様や地域のお子様遊びに来ている時に公園に行ってみる等 ちいさなことから始めていきたいです
2			
3			